

授業を最大限活かす

心理学と脳科学の相乗効果で子供は伸びる 宮城 学(伊丹学生交流センター代表)



子供の成績を伸ばしたいと考えた時、多くの保護者は塾に通わせませす。それも一つの方法ですが、その前に

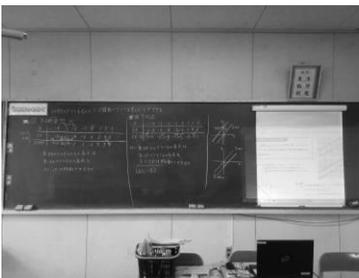
正しく授業を受けているかを確認した方が賢明です。授業の正しい受け方とは何でしょう。授業は、先生が教科書の内容を説明して、子供はそれを聞いてノートを取る。そう思っている方が多いと思います。このような授業の受け方であれば、YouTubeの講義動画を見ているのと変わりません。この方法で理解が深ま

る子供もいますが、大多数の子供は分かった気になるだけで理解は深まりません。せっかく授業を受けたのに「もったいない」状態です。

授業は、共同作業で行うと最も効果が出ます。先生と生徒が「この単元を理解したい(させたい)」と目的を一致させ、その為にそれぞれの行動をとるのが重要です。

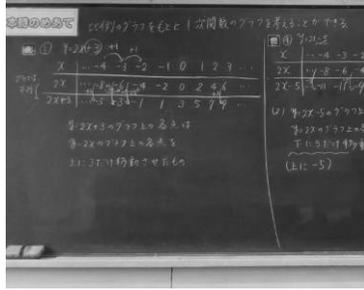
今、授業では「目当て(めあて)」を黒板に表示するようになっていきます。これは、その授業で達成したい

目標を示しています。



左上に「めあて」が書かれている

この授業では、黒板の端に「○○」ができるようになる」と授業で目標とする内容が書かれています。



最上段の部分が「めあて」

生徒は、授業の最初にその「めあて」を頭に入れることが大切です。

ゴール地点が分からないまま走り出すマラソンなんて、そんなおかしな事は誰もしないとします。ですが、授業に関しては、目標を確認しないまま走り出す人が多いのです。これでは、熱心に授業を受けても、成果

が出ません。

「めあて」で目標を確認することが始めの一步です。その後、先生が問題演習等を使って、段階的に理解を深める導きを行います。各段階での演習等に取り組む時は、めあて（目標）への道程であることを意識しましょう。

① 「めあて」で目標を確認する。
② 先生は段階的導きになるように、授業を進める。

③ 生徒は目標へのステップを意識しながら、問題演習等に取り組む。

この三つの要素が満たされれば、授業を最大限活かすことができるでしょう。そして、授業を最大限活かすことができれば、今よりも大きく学力向上することもできます。なぜなら、その効果がでるだけの時間と

労力が学校の授業には費やされています。一日に授業を受ける時間、学校に通う頻度、それらを考えてみて下さい。週に二日で数時間の塾とは比べ物になりません。そして、この授業の受け方をすると、学ぶことの楽しさや喜びを感じることが出来ます。学ぶことが「面白い」と感じる人になれば、毎日楽しいし、将来の選択肢は無限に広がるので、良いこと尽くめです。今から学校の授業を活かして、子供の能力を開花させてあげて下さい。